

No 13 連絡帳（日録）の重要性ー連絡帳の記入や活用が苦手な子への対応

授業で使う大切な学用品を忘れてしまい学習が思うように進まなかったり、決められた提出日までに、提出物や宿題が出せなかったりする児童生徒は、どのクラスにも見かけます。その児童生徒の特徴をよく探してみると、意外と連絡帳が書けていなかったり、書いてはいてもほとんど活用されていなかったりしているようです。

学用品の準備がしっかり出来ていたり、課題の提出日がきちんと分かっていたりすることは、学習に適応できる大切な一歩です。

連絡帳の記入や活用が苦手な児童生徒への指導について、出来ることから工夫してみましょう。

(1) 連絡帳（日録）がきちんと書かれていない

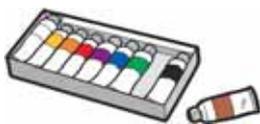
- ・書こうとはするが、書くのが遅くて、書き終わらない。
- ・書くことが面倒で、全部をきちんと書かないので、家で見ても分からない。
- ・連絡帳を持ってこない。（忘れてしまう。）

- ・書き写し易いように、連絡黒板の書式と全く同じ書式のプリントを使って書かせるようにします。プリントは、毎日正しく書けたか見てあげる（認めてあげる）ようにし、連絡ファイルに綴じて持ち帰らせます。
- ・連絡黒板を見て写すことが苦手な児童生徒には、連絡黒板に書く内容を事前にコピーしておき、それを横に置いて見て書くよう指導してみます。（それでもどうしても書き終わらない場合は、今日はここまで書けたねと認めた上で、残りの部分のコピーを渡すことも出来ます。）
- ・連絡帳を早く書ける方法を子どもと一緒に考えることも大切です。（国語はこ、算数はさ、など）
- ・集中が途切れやすい子には、「ここまで書いたら見せてね」など目標をもたせることも方法の一つです。

(2) 連絡帳（日録）が活用されていない

- ・家に帰ってから、連絡帳を見ない。（見せない。）
- ・家の人も、連絡帳を見ない。（忙しくて見られない。）

- ・連絡帳に書いたことで、特に忘れてはならない大切な事は、ちょっと目立つ付箋紙を利用し、**えのぐ**などと書いたものを連絡帳に貼るようにします。
家に帰ったら、その付箋紙をカレンダー、冷蔵庫のドアなど、目立つところに貼るように指導します。（習慣がつくように家の人にも協力してもらいましょう。）
朝、学校の支度をするとき、本人も家の人も付箋紙を見ることで、確かに用意したか確認することが出来ます。
- ・上記は、連絡帳（カード）を活用する一つの例であり、他にもいろいろな方法があると思います。どうしたら連絡帳を活用し学習等の用意をすることができるのか、家の人と本人と先生とで、話し合ってみることが大切です。



<子どものこころ>

担任が保護者と様々な連絡をとるために連絡帳が使われることがあります。単なる行事等の連絡ならOKですが、時折、学校で起こった児童の良くない行動を「 でした」等と書かれていることがあります。担任としては、何げなく親に様子を伝えるために書かれた文でも、毎日目にする子どもにとっては、とても気になり、連絡帳を見たくなくなります。

先生と保護者の連絡方法は別に考えるとして、連絡帳は、子どもが活用したくなるようなノートにしたいものです。

